

こぶし祭りにて
キッチンカーのデザート待
ちで渋滞中♪



理事長 荻部 一夫

人が集うには 訳がある

韓国・ソウルの梨泰院(イテウォン)地区で、人並みに押しつぶされて多くの人が亡くなるという事故がありました。亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りします。

人は元来群れる生き物だと言われています。コロナで長い間外出が制限されてきたこともあってか、堰を切ったようにハロウィンなどのお祭りや旅行にでかけるなど、非日常性を求めて動き出しているようです。

人はなぜ群れるのか。人はその場所に何を求めているのか。その理由をいろいろと思い巡らせると、いつも見ている景色が違って見える気がします。

私は、「ブラタモリ」という番組が好きでよく見るのですが、街歩きが趣味のタモリさんが、ブラブラ歩きながら知られざる街の歴史や人々の暮らしに迫る番組です。なぜそこに人々が群れてきたか、街の様々な魅力や歴史や文化からそのなぞを再発見していきます。タモリさんの趣向か、番組でいつも必ず出てくるのが、地質・地形などの要素です。人々がその土地の地質や地形などをいかにうまく利用してきたかは、人が群れる理由の大きな要素になっています。他にも、気候の要素も重視されています。これは水利や運搬・交通、城塞などと大きく関係することが紹介されています。

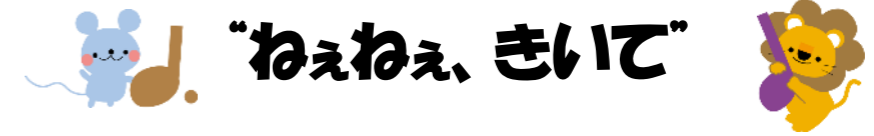
過日、石川県輪島市に視察に行ったときのことです。輪島市は中心都市の金沢市からも結構遠いですが、能登半島の先端に位置するというイメージの場所ですが、なぜこの地で「輪島塗」という日本を代表する文

化が発祥したのだろうと思っていました。現地の方からの説明を聞くと、「人が集うには訳がある」とかつて北前船で賑わった頃の街並みが残る地域を見て納得するものがありました。旅に出るとその土地その土地の自然や文化、人々の営みが感じられ感動を覚えます。

私は渋谷には滅多に行きませんが、ハロウィンや年越しカウントダウンには、日本全国から多くの若者が集まります。想像するに、個性を表現できることが魅力なのかもしれませんし、渋谷の街がもつ流行の先端文化が醸し出す空気に浸りに来たのかも体を感じているからかもしれません。

こうして考えてみると、私たち龍鳳は、練馬と東久留米、清瀬それぞれの地域の魅力の一つとして存在しているということを感じ、覚悟が必要があると思うのです。それには、人々が群れる(集いたくなるような)要因を考えるとともに、地域の人々にとっての各施設の存在意義を強く意識しておくことが大切だと考えています。

龍鳳は経営目標に「地域と共に持続可能な社会をつくる」を掲げています。さらに、このことを国連が提唱するSDGsへの取り組み目標とし、地域共生社会を目指していきます。それには龍鳳の持つ強みを生かします。こうした取り組みが地域の人々から愛される法人となることに繋がります。地域の魅力の一因となるのだと信じています。



“ねえねえ、きいて”

<丸山 耕太郎>

ある日のKさんですが、私が格子戸の近くで立っていると、食堂の椅子を足早に私の元に運んでくれました〜♪親切なAさんに感謝し、気遣いが出来る素晴らしい一面を発見しました！

こぶしが開所日や休日の時、何かこぶしでイベントがあった時には、一生懸命に体を使って教えてくれるSさん。つい先日は、こぶしの天井工事があった事を、天井を指さしたあと、壁を叩くような動作で教えてくれました！体を張って教えてくれるSさんの独特な表現に感謝です♪

<服部 優奈>

実習生のHさんが、作業中に「出来ました！」と大きな声で報告していました。その姿を見た先輩のKさんが「偉いな〜俺も頑張ろう！」と呟き、いつも以上に気合を入れて作業に取り組んでいました。Hさん、Kさんの前向きな姿勢が素敵でした☆

支援者が給食の準備をしていると、自発的にみんなの味噌汁を準備してくれるYさん。いつもは味噌汁の準備までですが、先日給食の準備が遅れていることに気がつきおかずのお皿まで並べてくれました！！「ありがとう〜！助かります！」と伝えると、にやりとしていたYさんでした♪

新たな気付き

私は今年度、行事企画課に配属され、クリスマス会のリーダーをやらせていただくのですが、私は正直考えることが苦手です。保育の学校出身という事もあり、“何かを作る“という事は好きなのですが、“一から考えてそれを発信して指示を出していく”と言うのはとても苦手で、利用者さんが楽しんで、思い出に残るようなイベントにできるのかなという不安があります。

そんな不安でいっぱいの中、同じ行事企画課の課員の方や行事企画課の課長が「何かあったら手伝います」や「相談に乗ります」と言ってくださり、「一人じゃないんだ、一人で抱え込まないで周りの人たちに沢山相談しよう」と思えるようになり、周りに人たちの存在の大切さ、ありがたさに気付くことが出来ました。イベントの内容は今、考えている最中でまだまだですが、周りの方たちと協力しながら利用者さんの思い出に残る、「楽しかった!!」と言ってもらえるようなクリスマス会にしたいと思います！

生活支援員 宮島 千夏

フォトニュース ～11月の様子～



記憶に残る時間

利用者さんも含め諸先輩方が築き上げてきた、ライフパートナーこぶしが設置運営されて12月で22年が経ちました。現在、入所施設を利用している方の平均年齢は約47歳になり、運営当初からいた方は年々、介護が必要な状態となりました。法人では、これまでも本人のアセスメントにより一人ひとりの状況に応じて、生涯発達の考えの基、活動プログラムを考えてきました。その中でも高齢化していく利用者さんが、いつまでも元気に本人らしく生活を楽しめるよう2020年に高齢対策課が発足しました。

しかし、高齢化していく中で、身体機能の低下や認知面での衰えが見えてきた利用者さんの対応を介護の面で支えていく経験がない職員がほとんどです。ですので、昨年からの介護技術取得のための動画視聴を始め、介護資料を読み込んでもらった小テスト、男女のフロア会議にて実際の利用者さんにも協力してもらい、実地研修も行ってきました。

現在、介護度の高い利用者さんを中心に朝活と呼ばれる活動で階段昇降によるリハビリを行い、3Fのパートナールーム（職員室）まで来てもらっています。休憩所として利用していますが「おはよう」と元気な挨拶をして皆さんの憩いの場になっています。いくつになっても、髪の毛を染めてオシャレをしたいとか、最高齢の人が「ケンタッキーフライドチキンセットが食べたい」という会話も聞こえてきます。いくつになっても人間は、本人の気持ちに寄り添った会話や歌やエピソードを伝えると、記憶を取り戻し、歌やダンスを踊り、冗談も飛び交います。何気ないこのような時間や場を提供することも高齢対策課で大切にしています。

介護や医療が必要となった時に、その受け皿として障害者の方が生活出来る場所はとても少ないです。ですから、介護技術取得による支援力から、生活を楽しんでいる利用者さんの様子や姿を見た地域の事業所が高齢対策課の取り組みを参考にし、生活場所が移ってもライフパートナーこぶしで過ごした時間が記憶に残り、安心した生活が続けられるようにしていきたいと思います。

相談支援専門員 佐藤 幸雄



太陽生命厚生財団 助成金

太陽生命厚生財団様からの助成金で、HI調理器2台、ホームベーカリー2台、ジューサー1台、移動式冷蔵庫1台を清瀬事業所で購入することができました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。



Point 医療情報 「応急手当の今・昔」～鼻血の手当て編～

前回お知らせした「傷の手当編」は、いかがでしたか？皆さんの思っていた手当の方法、アップデート出来ていましたか？

第2弾は【鼻血】の手当てについて、お知らせします！

昔は

ティッシュを鼻に詰め、上を剥いて頭の後ろを叩いたり、鼻の上の硬いところを押さえて止めました。



今は

小鼻をつまんで座って下を向き、目と目の間を冷やすと5分ほどで鼻血が止まります。横になる時は顔も下向きにします。

※上を向くと、血が気道をふさぐ危険が高くなります！下を向くのが正解です！！

看護師 新井 朋子

将来設計

最近、自身の将来を考えて投資を始めました。少額ですが、毎月コツコツと行っています。現在34歳、約30年後を見据えてですが、続けていけば大きなものになる予定です。

利用者さんの将来を考えたとき、今はできることや、やれることが少なくても、こぶしで行っている活動や取り組みをコツコツ行っていくことで、将来のできることを、やれることが増えていくと思っています。私たち支援者はその成長を見守りながら、時々お手伝いしていくことで、共に成長させていただいていると感じます。

投資と同じで、ずーっと上がり続けていくわけではありませんが、最後にやっていた良かったなど思える日がくることを信じて、今できることを続けていきたいと思っています。焦らずゆっくりと、ながーく続けて成長していく。でも自分が行っている投資はできるだけ早く、大きく成長してほしい…。そう思う今日このごろです。

生活支援員 土橋 龍介